

富山県知事

新田 八朗 様

要 望 書

とやま呉西圏域連携推進協議会

日頃から、とやま呉西圏域（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）の発展のため格別のご高配を賜り深く感謝申し上げます。

今後、人口減少社会において地方創生により本圏域の活力の維持向上を図り、一層の連携強化を推進するため、格段のご配慮をよろしく願います。

令和5年8月

高岡市長 角田 悠紀

射水市長 夏野 元志

氷見市長 林 正之

砺波市長 夏野 修

小矢部市長 桜井 森夫

南砺市長 田中 幹夫

1 連携中枢都市圏における安定した財源確保について

高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市の6市で構成する「とやま呉西圏域」では、平成28年10月に連携中枢都市圏を形成し、圏域の中長期的な将来像や具体的な取組を定める都市圏ビジョンを策定のうえ、連携事業を推進しているところである。

令和3年度から、5カ年を計画期間とする第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョンが始まり、6市の強みを生かして、これまで育んできた連携を更に深化させるとともに、より一層「つながり」を強化して、圏域全体の発展に向け、取組を推進しているところである。

人口減少・少子高齢化が急速に進行する中で、地域の再生・創生を果たすためには、人口や行政サービス、生活基盤等のみならず、経済・雇用や都市構造の面も重視した連携構築が必要である。そのためには、普通交付税や特別交付税など国からの安定的な財源を確保し、本圏域が一体となって実施する産業、観光、地域交通、医療・福祉等、各種連携施策を着実に推進することが重要である。

については、とやま呉西圏域連携中枢都市圏に対する国からの安定的な財源の確保について格別のご配慮をいただくとともに、6市の連携によって成果を挙げている本圏域のさらなる飛躍に向け、情報提供や助言など、引き続き積極的なご支援を願いたい。

- ・ とやま呉西圏域連携中枢都市圏への安定的な交付税措置

2 圏域全体の経済成長に資する公共交通ネットワークの 活性化について

北陸新幹線金沢開業により、とやま呉西圏域と首都圏とのアクセス環境は格段に向上した。特に、速達タイプ「かがやき」の新高岡駅への停車により、本圏域の交流人口拡大による賑わい創出や新高岡駅を基点にした飛騨地域・能登地域を含む“飛越能地域”への観光誘客効果がもたらされた。令和6年春の金沢・敦賀間開業、同年秋の北陸デスティネーションキャンペーンの開催の好機を着実に捉えながら、更なる誘客施策の展開や北陸地域内の交流促進等に取り組んでいくこととしている。

また、こうした効果をさらに本圏域全体に波及させるためには、新幹線の二次交通となるJR城端線・氷見線を始め、万葉線、あいの風とやま鉄道線などの地域公共交通の活性化や、連携強化が重要であり、沿線各市が連携し、様々な施策に取り組んでいるところである。

については、とやま呉西圏域の活性化のため、北陸新幹線新高岡駅への「かがやき」停車を始め、圏域の軸である公共交通ネットワークの機能強化・利便性向上について格別のご配慮を願いたい。

- ・ 金沢・敦賀間開業後における利便性の高い運行形態の継続
- ・ 「かがやき」の新高岡駅停車に向けた取組への助言及び取組強化への支援
- ・ 「はくたか」の所要時間の短縮及び増便
- ・ 「つるぎ」の「かがやき」との乗継改善、利便性の高い運行の継続
- ・ JR城端線・氷見線の活性化（城端線増便試行の継続、交通系ICカードの導入、ラッピング列車の運行及び城端線・氷見線の直通化検討など城端線・氷見線沿線地域公共交通計画の推進支援）
- ・ 万葉線の維持・活性化（鉄軌道の輸送設備整備、交通系ICカードの導入、新庄川橋架替事業に係る支援）
- ・ あいの風とやま鉄道の高岡駅以西の利便性向上

3 中山間地域等における鳥獣被害防止対策の推進について

中山間地域は農業生産活動等を通して、安全・安心な食料の供給、国土や自然環境の保全、優れた伝統文化の継承等の多面的な役割を担っているが、近年では高齢化や人口減少による担い手不足から、集落機能の低下や荒廃農地の増加が危惧されている。

現在、有害鳥獣による農作物被害額は高い水準で推移しており、人身被害を伴うクマや林業被害をもたらすニホンジカのほか、イノシシによる被害は特に深刻であり、農作物被害のみならず、中山間地域における農道法面やため池の堤体、農業用排水路の山側斜面等を掘り起こし、農業用施設の機能が損なわれるなど、さらなる被害拡大が懸念されている。また、市街地においてもカラスによる被害が確認されている。

こうした鳥獣被害は、市町村単独では対応が難しい側面があり、広域的な取組が求められる問題である。

これまでも、森林の整備や放任果樹の除去による環境管理、電気柵の設置等による侵入防止対策に加え、捕獲対策を加えた総合的な取組を地域ぐるみで実践しているものの、依然として被害は継続しており、一方で農業従事者や有害鳥獣捕獲隊の高齢化等により、多大な労力を要する対策活動の担い手不足が顕在化している。

これらの被害は営農意欲の減退や、耕作放棄地の増加等をもたらし、農山村に対して被害額以上に深刻な影響を与えることから、電気柵よりも比較的維持管理が容易な鋼製柵等の設置をはじめとした予防・捕獲活動の負担を軽減させる取組が求められている。

また、県においても、富山県農作物鳥獣被害防止対策連絡協議会等を通じ、クマ等による人身被害防止対策や、イノシシによる農作物被害防止対策を推進され、引き続き被害防止対策に取り組むこととされている。

ついでには、とやま呉西圏域の連携事業においても、農作物の被害を防止し、中山間地域等における農業生産活動等を維持させるため、圏域全体で被害防止対策に取り組む体制の整備、捕獲活動等への支援に対する取組について格別のご配慮を願いたい。

・ 鳥獣被害防止対策事業の推進

4 富山県西部地域における経済成長を促す産業拠点施設等の活用について

本圏域では、散居村の美しい砺波平野が良質な米の産地となっているほか、干し柿やサトイモ、そしてチューリップの球根や切り花の産地としても有名であり、「天然のいけす」と称される富山湾では寒ブリを始め、シロエビ、ベニズワイガニの好漁場となっている。また、これら農林水産業だけでなく、アルミ、鉄鋼等の金属・非鉄金属製品を中心とした素材産業が集積し、銅器、鋳物、木工などの伝統工芸産業も含めたものづくり産業が盛んであることから県内の産業拠点となっていることが“強み”である。

これら本圏域の“強み”は、起業・創業や新成長分野への挑戦に対する支援、産官学金が連携した新技術・新製品の開発支援や環境整備、異業種間交流の推進や地域資源のブランディング、圏域の多彩な自然や文化、地域資源を活かした戦略的なプロモーションや旅行商品の造成などの連携事業で磨いてきたところである。

各種の連携事業を進めるにあたっては、本圏域内の事業者はもとより、大学、金融機関だけでなく富山県とも軌を一にした取組を進めることが必要不可欠である。“とやま呉西圏域の強み”を磨くことは、ひいては“富山県の強み”にもなっていくことから、本圏域の活性化に資する産業拠点施設の積極的活用について格別のご配慮を願いたい。

- ・ 富山県産業技術研究開発センター・ものづくり研究開発センターにおける「オープンイノベーション・ハブ」の施設及び隣接する「富山大学先進アルミニウム国際研究センター」を含む先進軽金属材料国際研究機構への研究支援・活用促進
- ・ 富山県産業技術研究開発センター・生活工学研究所におけるヘルスケア製品開発拠点の施設を活用した新繊維・素材を用いた高機能ウェアやスポーツ関連製品等の開発促進
- ・ 富山県総合デザインセンターにおける「バーチャルスタジオ」を核とした幅広い産業分野における国内外のデザイナーとの連携促進
- ・ 氷見栽培漁業センター（富山県栽培漁業センター）を活用した小学生の社会見学や中学生の職場体験、一般の観光客の受入れなど、漁業を通じた教育・産業観光の推進
- ・ 富山県花卉球根農業協同組合が主体となって実施する球根ネット栽培技術の普及拡大をはじめとしたチューリップ産業推進への支援

とやま
呉西圏域

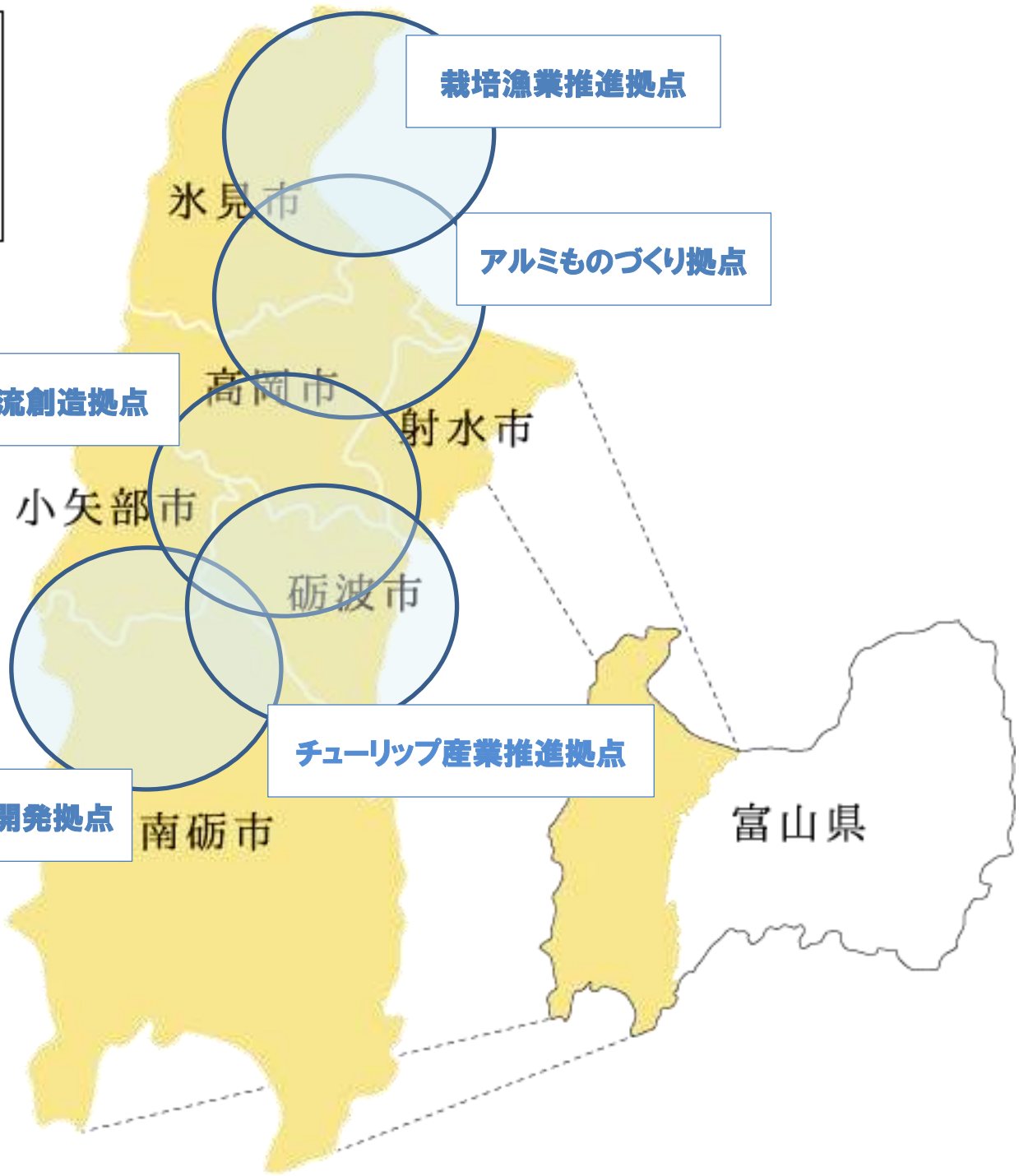
栽培漁業推進拠点

アルミものづくり拠点

デザイン交流創造拠点

チューリップ産業推進拠点

ヘルスケア製品開発拠点



氷見市

高岡市

射水市

小矢部市

砺波市

南砺市

富山県

